慶應義塾教育研究発展事業

〇慶應義塾大学グローバルフェローシップ（私費留学助成）事業（2024年度以降新規募集停止）

慶應義塾大学グローバルフェローシップ（私費留学助成）事業（以下、本事業）は、2015年度からの9年間で、総勢27名の学生が留学し、うち12名が学位を取得しています（表１）。

学位取得後は、本学の教員として教育研究活動に従事する者、革新的なサイエンスの研究開発を推進する者、世界を代表する企業に就職する者など、多岐にわたって活躍しています。

現在留学中の学生は13名にのぼり、学位取得を目指し日々研究活動に励んでいます（表２）。

表１．学位取得一覧（2024年6月1日時点）

採択年度	留学先		学位	
2016 年度	King's College London	英国	Doctor of Philosophy	English
2016 年度	Illinois Institute of Technology	米国	Doctor of Philosophy	Mechanical and Aerospace Engineering
2017 年度	University of Sussex	英国	Master of Science	Development Economics
2017 年度	University of Wisconsin-Madison	米国	Master of Science	Economics
2017 年度	Université Toulouse	仏国	Doctorat	Philosophy
2017 年度	University of California Los Angeles	米国	Doctor of Philosophy	Bioengineering
2018 年度	Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health	米国	Master of Science	Public Health
2018 年度	University of York	英国	Doctor of Philosophy	English
2019 年度	University of Waterloo	加国	Doctor of Philosophy	Physics
2019 年度	Queen Mary University of London	英国	Doctor of Philosophy	English
2020 年度	The University of Texas, Austin	米国	Master of Science	Computer Science
2021 年度	Columbia University	米国	Master of Arts	Arts

表２．留学先（機関）一覧

	留学先（機関）
1	Martin Luther University of Halle-Wittenberg
2	Northwestern University
3	University of Colorado Boulder
4	RWTH Aachen University
5	Johns Hopkins University
6	University of California, Berkeley
7	University of Wisconsin-Madison
8	University of Maryland
9	Massachusetts Institute of Technology
10	University of California San Diego
11	Stanford University （Pre-doctoral Research Fellow）
12	University of California, Berkeley
13	University of Oxford

参考URL：https://www.keio.ac.jp/ja/news/2023/12/4/27-155220/

○東京オリンピック・パラリンピック関連事業

【2016年度】

● **「東京2020オリンピック英国チーム事前キャンプ契約書締結式」を実施**

英国オリンピック委員会（BOA）、日本オリンピック委員会（JOC）、横浜市、川崎市および慶應義塾大学が2020年のオリンピック大会に向けての協力を約する契約書の締結式を行いました。BOA からセバスチャン・コー委員長、JOC から竹田恆和会長、林文子横浜市長、福田紀彦川崎市長および清家篤慶應義塾長（当時）が一堂に会し、20社を超えるマスコミの前で調印式を執り行い、東京オリンピックの成功に向けての協力への決意表明をしました（2017/3/21）。

https://www.keio.ac.jp/ja/news/2017/3/23/27-20137/

【2017年度】

● **広報計画（ブランディングシステム制作）**

英国代表チーム事前キャンプの受け入れに向けた機運醸成のため、慶應義塾大学、横浜市、川崎市の3者が連携して統一的なプロモーションを展開できるよう、合同で使用するブランディングシステム（共同ロゴ等）を制作しました。2017年11月の提案競技に参加したデザイン会社の中から、慶應義塾創立150年記念のロゴデザインを担当した会社が委託先として選ばれ、次のロゴが完成しました。

横浜市・川崎市・慶應義塾大学共有で活用する GOGB ロゴ

ロゴを活用したキャンパス装飾（日吉キャンパス協生館内）

● **事業拠点の整備（協生館コミュニケーション・プラザ）**

本事業の拠点として決定している日吉キャンパスの協生館2階のコミュニケーション・プラザの整備を進めました。本事業は慶應義塾の様々な教育・研究活動に広がる可能性があることから、その用途に応じて自由にデザインできるような設計としました。例えば、学生ボランティアチームの活動や、横浜市・川崎市・BOAとの連携の拠点として、また、慶應義塾の教育・研究・医療の研究成果を発信する場としての利用などを想定し、ガラス張りの開放的な空間とし、BOA、BPAの競技者、スタッフ、学生、教職員が集う場を提供します。

【2018年度】

● **「東京2020英国パラリンピック委員会との覚書締結式」を実施**

東京2020パラリンピックにおける英国パラリンピック代表チームの事前キャンプ受け入れについて、英国パラリンピック委員会（BPA）と覚書を締結しました。BPAと慶應義塾大学、横浜市、川崎市の4者は、事前キャンプのみならず、文化・学術面での交流や、地域社会との交流も見据え、協力していく予定です。日吉キャンパスの会場には、多くの来賓をはじめ、英国視覚障害者柔道の選手たちも参加し、選手と学生が歓談する場面も見られました（2018/5/24）。

https://www.keio.ac.jp/ja/news/2018/5/28/27-44206/

● **広報活動**

慶應義塾大学と横浜市および川崎市は、3者共同で英国代表チーム応援ウェブサイト「GOGB2020」（https://gogb2020.jp/）を立ち上げました。日・英語 2か国語で対応しており、ホストとしての3者の魅力を国内外にアピールすると共に、英国代表チームが事前キャンプを行う施設や競技を紹介するサイトとなっています。大会終了まで、各種イベント情報や英国代表チーム（Team GB、ParalympicsGB）関連情報など、英国代表チームの応援に役立つ情報を発信することを目指しています。

● **英国オリンピック委員会 Team GB 事前キャンプ・セミナーシリーズ開催**

英国オリンピック委員会（BOA）と慶應義塾大学は、日吉キャンパス協生館藤原洋記念ホールにて、「最高のパフォーマンスを保つには」と題するセミナーを共催しました。講演のあと、ボート競技の パフォーマンスディレクターであるブレンダン・パーセル氏を含む登壇した3名の講師への質疑応答が行われ、約140 名の参加者から、学生、教員、体育会関係者、塾員らと、活発な意見が交わされました。本セミナーは 2020 年に向けて横浜市および川崎市と持ち回りで計6回実施するセミナーシリーズの1回目です（2018/10/19）。
https://www.keio.ac.jp/ja/news/2018/10/24/27-48991/

BOA との共催セミナーの様子

【2019年度】

● **BOA およびBPA 競技チームのテストキャンプ受け入れ**

2019年度は、BOA からは陸上競技，アーティスティック・スイミング，マラソン・スイミング，スイミング，器械体操，トランポリン，柔道，テコンドー等の競技チームによるテストキャンプや視察、BPA からは柔道，端艇，アーチェリーの競技チームによるテストキャンプや視察を受け入れました。チームによっては複数回にわたって来日し、周到な準備を行うチームもありました。また、BOA, BPA ともに、視察と事前打合せのためにスタッフが複数回訪れ、事前キャンプの運営に関する検討、調整が重ねられました。この機会に体育会部員および KEIO 2020 project メンバーを中心とする学生達がテストキャンプの支援を行い、BOA，BPA の選手達と交流しました。

陸上競技チームと塾生との交流

器械体操チームの蝮谷体育館での練習風景

● **広報活動**

2018年度に慶應義塾と横浜市および川崎市の3者で立ち上げた英国代表チーム応援ウェブサイト「GO GB 2020」の運用を継続して行いました。2019年度は、テストキャンプの実施報告や東京2020オリパラに関係する人々のコラム等を日英語で更新したほか、慶應義塾のウェブサイト中に設けられたオリパラページをトピックごとに見やすくする変更を行いました。

また、テストキャンプ受け入れ時に、チームの歓迎および海外の報道機関による報道や選手達が発信するSNS等で慶應義塾をキャンプ地としていることが分かるように、日吉キャンパス各所に慶應義塾およびGOGBのロゴを活用した装飾を行いました。2019年7月のBOAテストキャンプ時には、英国メディアであるBBC, Sky Sports, Daily Telegraph 紙が滞在チームの取材を行い、その際に器械体操部員が Sky Sports による取材を受けました。

柔道場内の装飾

【2020年度】

東京2020オリンピック・パラリンピック大会の延期にともない、日吉キャンパスで予定されていた英

国代表チームによる事前キャンプも2021年夏に延期され、2020年のキャンプの実施やイベントの開催などは見送りとなりました。

● **広報活動**

2021年夏の本大会開催を前提として、慶應義塾と横浜市および川崎市の3者で2018年度に立ち上げた英国代表チーム応援ウェブサイト「GO GB 2020」の運用を継続して行いました。2020年度は英国オリンピック委員会（BOA）および英国パラリンピック委員会（BPA）による大会延期に関するメッセージ等を中心に情報を発信しました。本サイトは2019年1月～2020年10月までで5万件近いアクセス数を記録し、うち日本からのセッションは87.4%，海外からのセッションは12.6%を占めました。

【2021年度】

●英国代表「チームGB」「パラリンピックGB」の事前トレーニングキャンプの受け入れ

東京オリンピック・パラリンピック大会開催にともない、英国オリンピック代表チームが、2021年7月8日から8月7日まで、英国パラリンピック代表チームが、8月13日から9月2日まで、慶應義塾日吉キャンパスの記念館、協生館等の施設において事前キャンプを実施しました。キャンプ期間中は、コロナ禍による制約はあったものの、室内装飾等を用いた選手への激励など直接的・間接的に英国代表選手やスタッフを支援し、親交を深めました。

また、事前のトレーニングキャンプ等を通じて、英国代表チームと信頼関係を築いてきたスタッフを現地に配置することにより、事前準備やキャンプ期間中の学内調整等を含め、英国代表チームへのきめ細やかなサポートを行いました。東京2020大会において多数のメダルを獲得した両チームからは、心からの感謝の言葉が寄せられ、無事に事前キャンプの受け入れを終えました。

●広報活動

慶應義塾と横浜市および川崎市の3者で2018年度に立ち上げた、英国代表チーム応援ウェブサイト「GO GB 2020」の運用を、2022年2月末まで継続して行いました。2021年度は、安心・安全な事前キャンプ運営にむけた感染症対策をはじめ、事前キャンプに関する情報を中心に発信しました。また、事前キャンプ後には、英国オリンピック委員会（BOA）や英国パラリンピック委員会からの感謝のメッセージや、選手と塾生との交流の様子等を掲載しました。

なお，同ウェブサイトは2022年2月末をもって閉鎖し，国立国会図書館インターネット資料収集保存事業を通じてアーカイブしました。

（国立国会図書館インターネット資料収集保存事業）https://warp.da.ndl.go.jp/waid/32749

○「学問のすゝめ」150周年プロジェクト

【2022年度】

2022年は『学問のすゝめ』初編刊行から150年となる節目の年でした。
この機に、これからの未来を切り開いていく受験生や塾生などを対象に、現代にも通用する示唆に富んだ『学問のすゝめ』を読んでもらい、先が見通せない不確実な時代の指針としてもらうよう、主に動画の制作を中心とした施策を行いました。

ガクモンノススメ
「学問のすゝめ」150周年プロジェクト

●動画制作

慶應義塾長の伊藤公平が、各界で活躍する塾員（卒業生）からお話を伺い、予測困難な現代にも通じる福澤諭吉の教えを、それぞれの視点から読み解いていきました。

●講演、ブックフェア等

『学問のすゝめ』150年を記念した講演やブックフェア等も実施しました。2022年11月13日開催の

「朝日教育会議2022」では、「起業のススメ－『学問のすゝめ』150年に寄せて」をテーマに、福澤諭吉と門下生たちのアントレプレナーシップに関する講演や、慶應義塾のスタートアップ創出支援・成長支援に関するプレゼンテーション、パネルディスカッションを行いました。

朝日教育会議2022 「起業のススメ－『学問のすゝめ』150年に寄せて」を開催
https://www.keio.ac.jp/ja/news/2022/12/7/27-133975/

「朝日教育会議2022」の様子

【2023年度】

●動画制作

昨年度に引き続き、慶應義塾長の伊藤公平がゲストの経験を通して『学問のすゝめ』を読み解く動画を公開しました。2023年度は、「ビリギャル」として知られている小林さやか氏にコロンビア教育大学院へのチャレンジを通じて学び続けることへの想いを語っていただいたほか、最も尊敬する人物として福澤諭吉を挙げているJICA前理事長北岡伸一氏からは、国連代表部次席大使の経験などを通じて学今の若者に伝えたいことなどを伺いました。

●講演

2023年4月26日、公益財団法人国際文化会館において、慶應義塾長の伊藤公平が「『学問のすゝめ』から150年：この大転換期をどう生きるか」と題した講演を行いました。

ガクモンノススメ特設ページ　https://www.keio.ac.jp/ja/gakumon150/

○その他の主な事業

【2023年度】

●「OpenAI CEO Sam Altman氏と塾生との対話」の開催

近年急速に開発が進められている生成AIについては、大学の教育活動における活動可能性やリスクなど正負両面の影響が指摘され、注目されています。

生成AI の一つであるChatGPTを公開したOpenAI社のCEO Sam Altman氏を招き、2023年6月12日に「OpenAI CEO Sam Altman氏と塾生との対話」を開催しました。慶應義塾長の伊藤公平の挨拶に始まり、モデレーターを務める理工学部小原京子教授とAltman氏の対談の後、参加塾生からの質疑応答へと続きました。塾生からは、教育におけるAIの適切な使い方や教育にもたらされる変化、また、課題として指摘されている著作権侵害などの倫理的・法律的問題への対応などについて多くの質問が出されました。

塾生の質問に答えるAltman氏

以上